

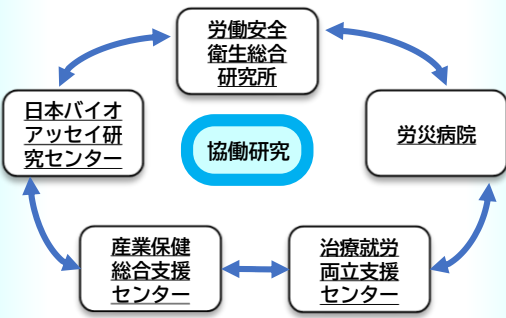
協働研究

労働者健康安全機構の複数の施設が有する機能等を連携させて行う研究です。

協働研究を行うとき、あるいは研究終了後などの際には、労働安全衛生政策に資するよう厚生労働省の政策担当部門と連携をとりながら研究を行っています。

研究テーマの考え方

- ・過労死等の防止等に関する研究
 - ・脊髄損傷等の予防及び生活支援策に関する研究
 - ・化学物質による健康障害の予防及びばく露評価に関する研究 など
- 労働災害の減少及び被災労働者の社会復帰の促進に結びつくもの



研究における施設間の連携

〈例1：三施設がコラボし、化学物質等によるばく露防止から健康管理まで包括的に実施している研究〉

- ・アスベスト疾患研究・研修センター（CT検査等の臨床調査）
- ・労働安全衛生総合研究所（ばく露防止対策）
- ・日本バイオアッセイ研究センター（毒性の発生メカニズム、量反応関係の解明等）

〈例2：脊髄損傷等の予防及び生活支援策等に関し医学・工学分野が連携する研究〉

- ・労働安全衛生総合研究所（機械工学、安全工学）
- ・吉備高原医療リハビリテーションセンター（リハビリテーション）
- ・横浜労災病院（整形外科）

くわしく知りたい方は



労働者健康安全機構(JOHAS): <https://www.johas.go.jp/>

プロジェクト研究

労働安全衛生総合研究所が主体となり、行政施策の企画・立案のためのエビデンスを収集することを目的として研究を実施しています。

プロジェクト研究を行うとき、あるいは研究終了後などの際には、労働安全衛生政策に資するよう厚生労働省の政策担当部門と連携をとりながら研究を行っています。なお、機構内の複数の機関が協働することで、大きな効果が期待される分野については協働研究として実施することもあります。

第13次労働災害防止計画（平成30年2月 厚生労働省）に掲げられた次の①～⑦の視点に沿った研究テーマを設定し、研究を行っています。

- ① 労働安全衛生施策の企画・立案のエビデンスを収集する研究を体系的・継続的に推進していく視点
- ② 死亡災害の撲滅を目指した対策の推進の視点
- ③ 過労死等の防止等の労働者の健康確保対策の推進の視点
- ④ 就業構造の変化及び働き方の多様化に対応した対策の推進の視点
- ⑤ 疾病を抱える労働者の健康確保対策の推進の視点
- ⑥ 化学物質等による健康障害防止対策の推進の視点
- ⑦ 社会科学系の他の研究機関との連携等による労働分野の総合的な研究を推進する視点

プロジェクト研究課題一覧はこちら



プロジェクト研究課題: <https://www.johas.go.jp/kenkyu/tabid/1617/Default.aspx>

過去のプロジェクト研究報告書はこちら



労働安全衛生総合研究所 特別研究報告: <https://www.jniosh.johas.go.jp/publication/srr.html>

災害調査

労働安全衛生総合研究所では、厚生労働省からの要請に基づき、労働基準監督機関等の協力を得つつ、事案に応じた高度な専門的知見を有する研究員を現地に派遣するなどにより、労働災害の原因究明調査を行っています。

その後の調査結果については、高度な実証実験やデータ解析等の実施により時間を要するものを除き、速やかに厚生労働省に報告を行い、同種災害の発生防止に貢献しています。

主な事例



建設現場における仮設構造物の崩壊による災害



建設現場での土砂崩壊による災害



化学工場での爆発災害



大型機械の折損による災害

過去の災害調査報告書はこちら



災害調査報告書: https://www.jniosh.johas.go.jp/publication/saigai_houkoku.html

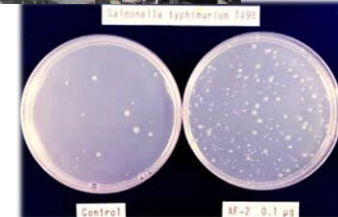
化学物質等の有害性調査

(日本バイオアッセイ研究センター)

日本バイオアッセイ研究センターでは、ラット、マウス等の実験動物を用いて、吸入ばく露試験はもとより気管内投与、経口投与などによる安全性試験、また微生物や培養細胞を用いた変異原性試験等を行っています。

変異原性試験においても、動物の吸入ばく露技術を生かして、ガス状物質あるいは揮発性物質の試験を実施しています。

信頼性の高いデータを提供するために、GLP(Good Laboratory Practice: 優良試験所規範)の各条件を満足する施設・設備を始め、高い技術力を持った体制を整えています。



くわしく知りたい方は



日本バイオアッセイ研究センター(JBRC): <https://www.johas.go.jp/jbrc/about/tabid/1040/Default.aspx>

過去のがん原性試験実施結果はこちら



厚生労働省 職場の安全サイト
厚生労働省委託 がん原性試験実施結果: <https://www.johas.go.jp/jbrc/about/tabid/1040/Default.aspx>

労働安全衛生総合研究所

職場における労働者の安全と健康を確保するため、工学、化学、医学等の様々な観点から総合的な調査研究等を行う機関として設立された研究所です。

当研究所で行った研究成果は労働安全衛生に係る法令、ガイドラインの制定、改正等に活用されています。

また、厚生労働省の要請に基づき、重大又は複雑な労働災害を調査し、その原因の究明や再発防止対策の究明を行っています。



日本バイオアッセイ研究センター

GLP基準に適合した施設であり、主に労働現場で使用され、発がん性等の毒性が疑われるものとして厚生労働省が指定した化学物質等に関する試験及び研究を行っています。

また、民間企業等からの受託による各種試験も行っていきます。当センターで得た毒性情報は厚生労働省の施策に活用されるほか、国際がん研究機関（IARC）の毒性評価等にも活用されております。



●アクセス

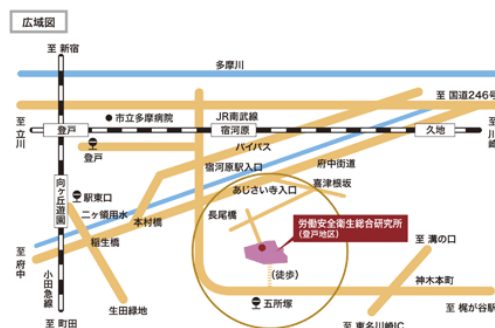
▶労働安全衛生総合研究所

・清瀬地区
〒204-0024
東京都清瀬市梅園1-4-6
TEL：042-491-4512 FAX：042-491-7846



・登戸地区

〒214-8585
神奈川県川崎市多摩区長尾6-21-1
TEL：044-865-6111 FAX：044-865-6116（管理課）
FAX：044-865-6124（研進センター）



▶日本バイオアッセイ研究センター

〒257-0015
神奈川県秦野市平沢2445番地
TEL：0463-82-3911 FAX：0463-82-3860



発行日：令和3年●月●日（校正中）

JOHAS

労働安全衛生 研究事業の ご紹介

独立行政法人 労働者健康安全機構（JOHAS）とは

当機構は、労働者健康福祉機構、労働安全衛生総合研究所、日本バイオアッセイ研究センターが統合し、平成28年4月1日に誕生した独立行政法人です。

理念

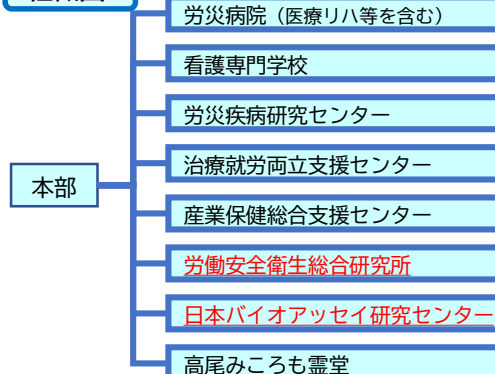
「勤労者医療の充実」「勤労者の安全向上」「産業保健の強化」

我が国の産業・経済の礎を維持、発展させるとともに、勤労者一人ひとりの人生を支える大きな役割を担っています。

行動指針

- (1) 一般医療を基盤とした勤労者医療を常に先取りし、実践していきます
- (2) 健康で安全な職場を構築する研究などを進めます
- (3) 全ての勤労者の健康維持と安全向上に貢献します
- (4) 高い倫理観と社会規範のもとに行動します
- (5) 機構（労災病院群、労働安全衛生総合研究所、日本バイオアッセイ研究センター、産業保健総合支援センターなど）内の連携や協働を進めます
- (6) 経営基盤の安定を図ります

組織図



●アクセス

▶本部
〒211-0021
神奈川県川崎市中原区木月住吉町1番1号 事務管理棟
TEL：044-431-8600（総務部）
<研究試験企画調整部>
TEL：044-431-8670 FAX：044-411-5560



独立行政法人
労働者健康安全機構（JOHAS）
（研究試験企画調整部）